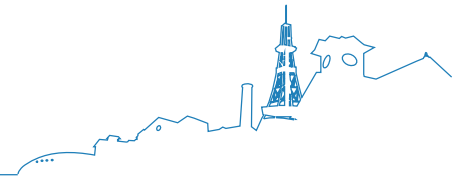


SAPPORO

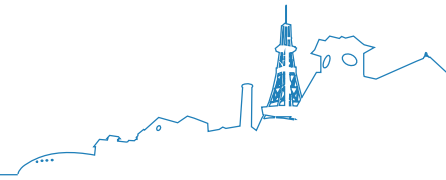
真駒内地区の 義務教育学校について

2022年5月22日（日）
札幌市教育委員会



- I 義務教育学校とは
- II 真駒内地区における義務教育学校の整備について
- III これまでのご質問から(Q&A)
- IV 最後に

Ⅰ 義務教育学校とは



札幌市では、令和4年4月から全市立小中学校で「小中一貫した教育」を全面実施します。

札幌市の「小中一貫した教育」の目的

「自立した札幌人」の実現に向け、義務教育段階において「知・徳・体の調和のとれた育ち」の一層の充実を図る

札幌市の「小中一貫した教育」推進の四つの視点

1

9年間を通した
子どもの学びの
つながり

2

子ども理解・
生徒指導の
連続性

3

教職員の
連携・協働

4

家庭や地域
との関わり

小中一貫

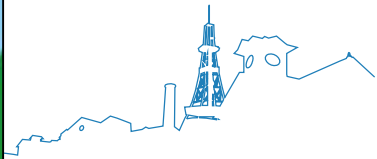
した

教育

多様な

全市の共通性と学校・地域の独自性を生かした取組により、教育の質を高める。

さっぽろっ子 小中一貫したつながりのススメ



「小中一貫した教育」は、札幌らしい「教育のススメ方」です。

小学校と中学校が互いにつながり、学び合いながら、学校・家庭・地域が互いにつながり、同じ目線に立ちながら、途切れることなく、全ての子どもに寄り添い、見守り、育みます。

子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できるように。



学校・家庭・地域のつながりの中で、連続性をもって子どもを育みます。

さっぽろっ子「学び」のススメによる一貫した習慣づくり

9年間の**学び**をつなげます

分かる・できる・楽しい授業による連続性のある教育の推進

子どもの**育ち**をつなげます

小・中の指導のよさを取り入れた切れ目のない子どもの育ちの支援

4つの視点から札幌らしい教育を進めます

互いの顔が見える関係づくりによる小中の教職員の連携の強化

目指す子どもの姿の共有などによる地域とともにある学校づくりの推進

小中の**教職員**がつながります

学校・家庭・地域がつながります



札幌市では、令和2年2月に「札幌市小中一貫した教育基本方針」を策定しました。詳しくはこちらを御覧ください。



札幌市教育委員会



学校・家庭・地域が互いにつながり、

まほうのかいわで

9年間の系統性・連続性のある教育を実現し、子どもの知・徳・体の調和のとれた育ちの一層の充実を図ります。

9年間の**学び**を つなげます

分かる・できる・楽しい授業による
連続性のある教育の推進

子どもの**育ち**を つなげます

小・中の指導のよさを取り入れた
切れ目のない子どもの育ちの支援

4つの視点から 札幌らしい教育を進めます

互いの顔の見える関係づくりによる
小中の教職員の連携の強化

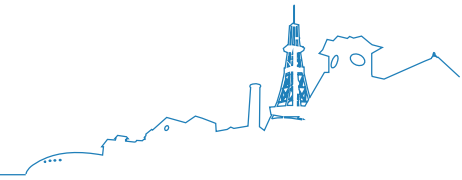
小中の**教職員**が つながります

目指す子どもの姿の共有などによる
地域とともにある学校づくりの推進

学校・家庭・**地域**が つながります



Ⅰ 義務教育学校とは



小中一貫教育の効果（文部科学省調べ抜粋）

① 9年間を通した子どもの学びのつながり

授業が理解できると答える児童生徒が増えた

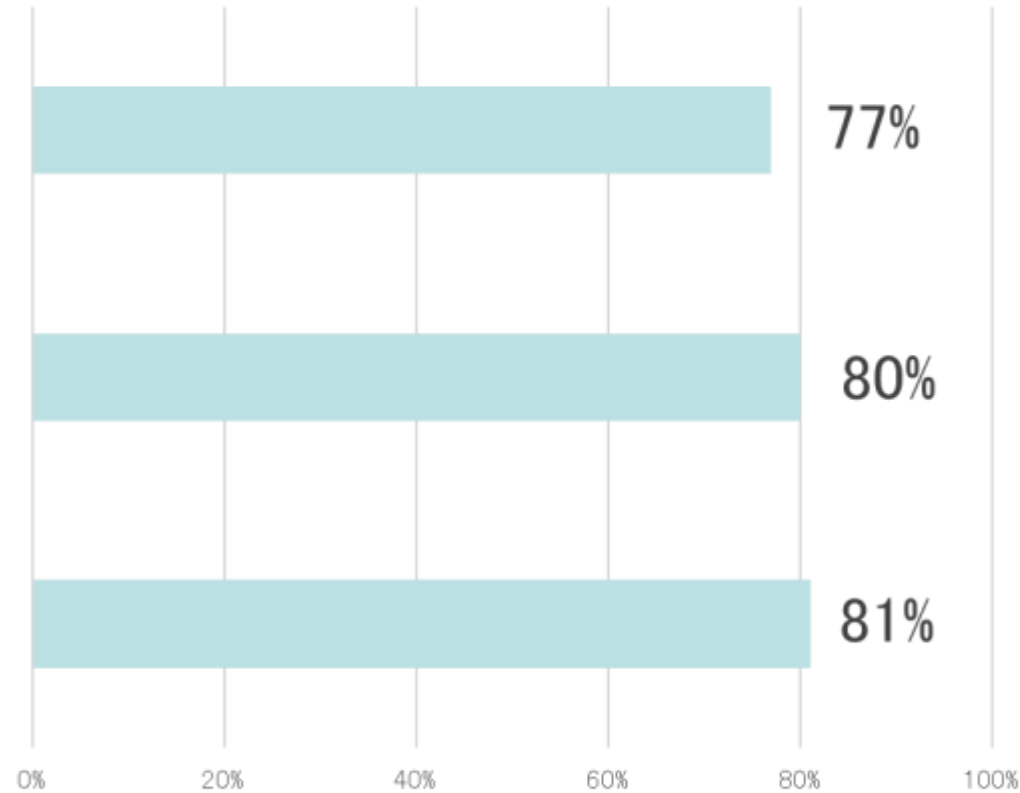
77%

学習意欲が向上した

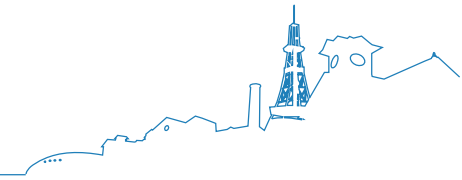
80%

学習習慣の定着が進んだ

81%



Ⅰ 義務教育学校とは



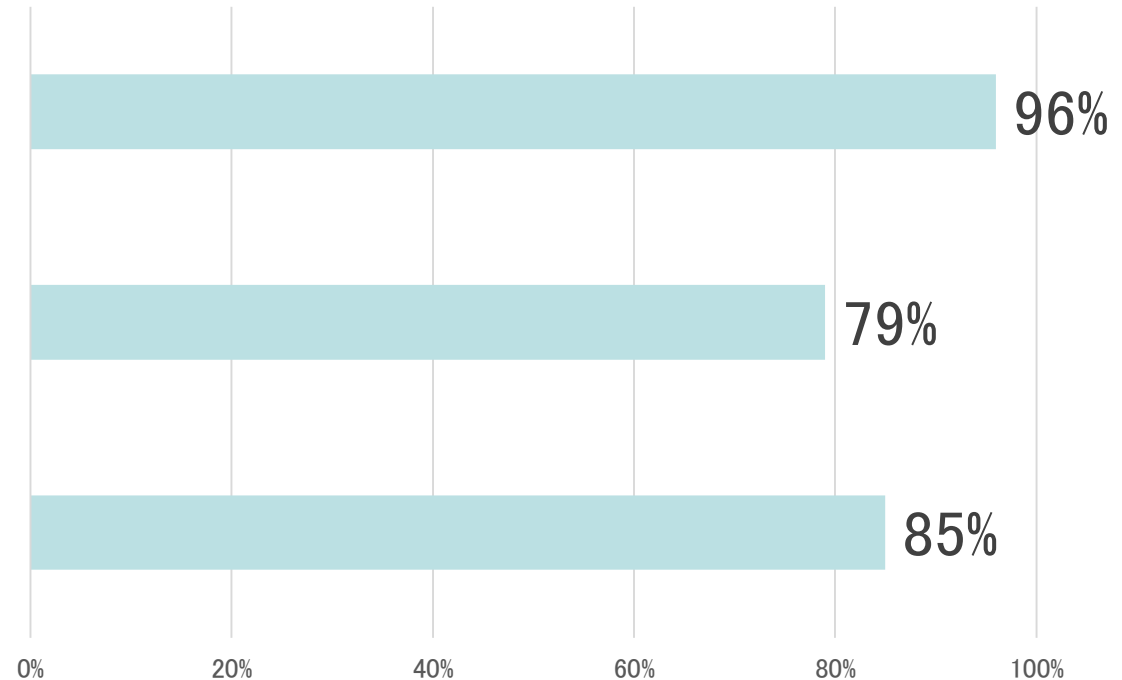
小中一貫教育の効果(文部科学省調べ抜粋)

② 子ども理解・生徒指導の連続性

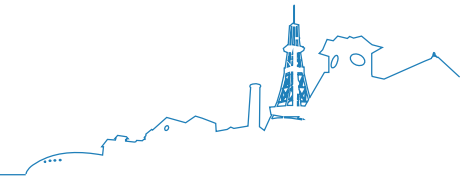
中学校への進学に不安を覚える児童が減少した

児童生徒の自己肯定感が高まった

児童生徒の学校生活への満足度が高まった



Ⅰ 義務教育学校とは



小中一貫教育の効果（文部科学省調べ抜粋）

③ 教職員の連携・協働

教員の教科指導力の向上につながった

87%

教員の生徒指導力の向上につながった

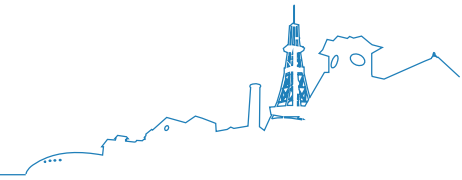
85%

小・中の教職員間で互いの良さを取り入れる意識が高まった

95%

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

Ⅰ 義務教育学校とは



小中一貫教育の効果(文部科学省調べ抜粋)

④ 家庭や地域との関わり

保護者の学校への満足度が高まった



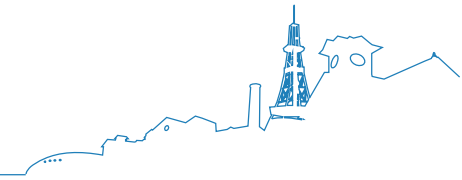
保護者との協働関係が強化された



地域との協働関係が強化された



I 義務教育学校とは



小中一貫教育制度について

札幌市の小中一貫した教育（制度によらない一貫教育）

中学校区を基礎単位としてパートナー校を設定し、

目指す子ども像を共有するなど4つの視点に基づいた取組を推進

小中一貫校（平成28年度に制度化）

法整備された仕組みであり、9年間を通じた教育課程の編成や系統的な教育を目指す学校

併設型小学校・中学校

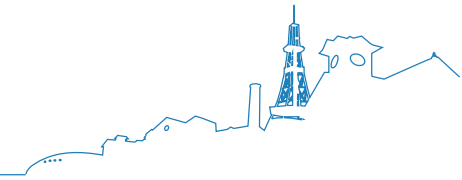
組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態であり、それぞれに校長、教職員組織を有する学校

義務教育学校

1人の校長の下、1つの教職員組織で義務教育9年間の系統性を確保した教育課程を編成、実施する学校

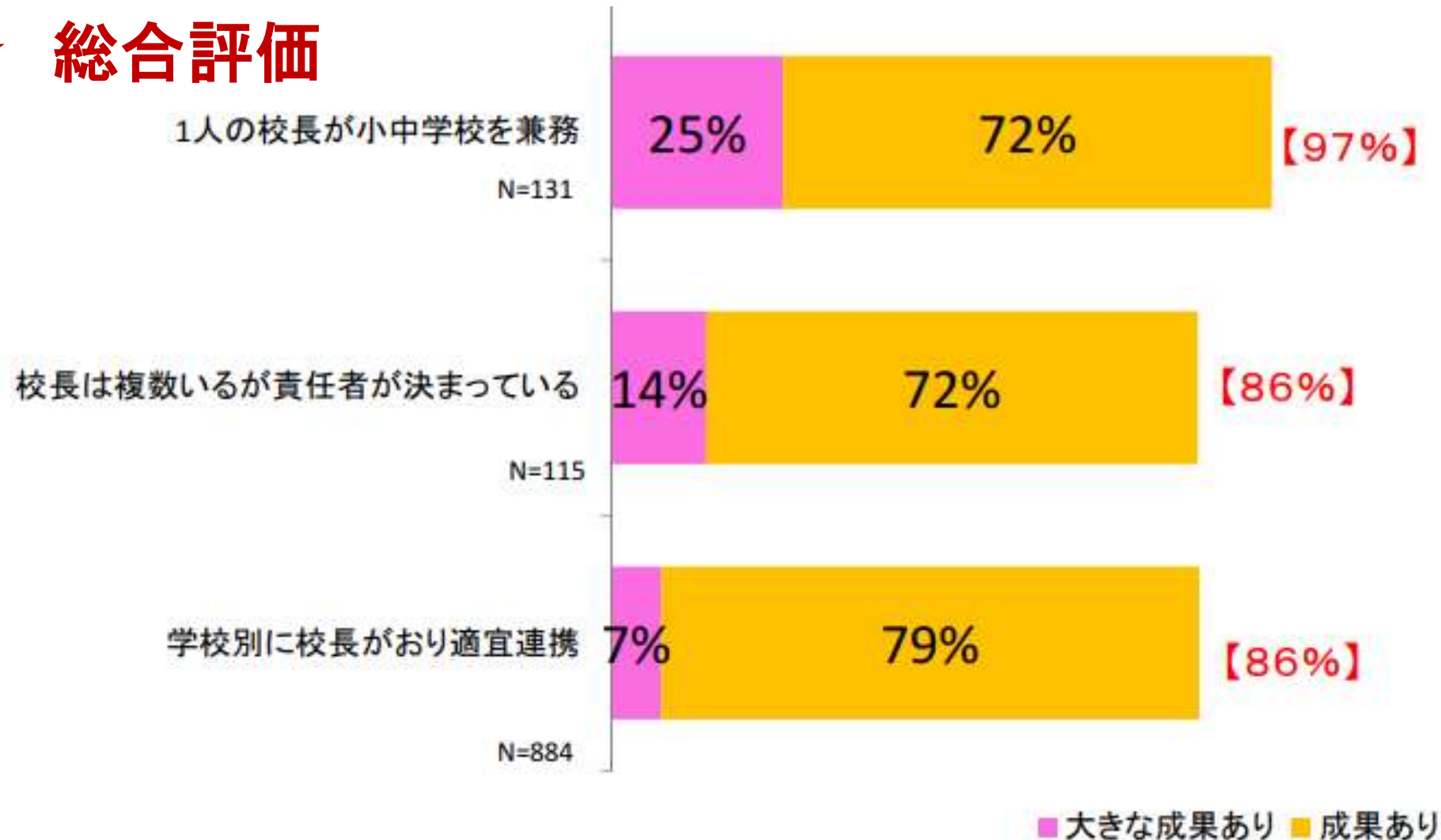
どちらの学校であっても施設の形態（一体型、隣接型、分離型）は問わない。

I 義務教育学校とは

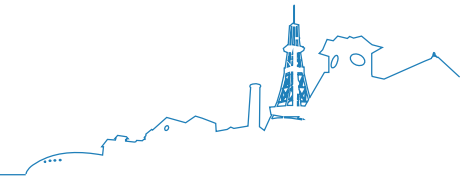


校長の体制 × 小中一貫教育の効果(文部科学省調べ抜粋)

★ 総合評価

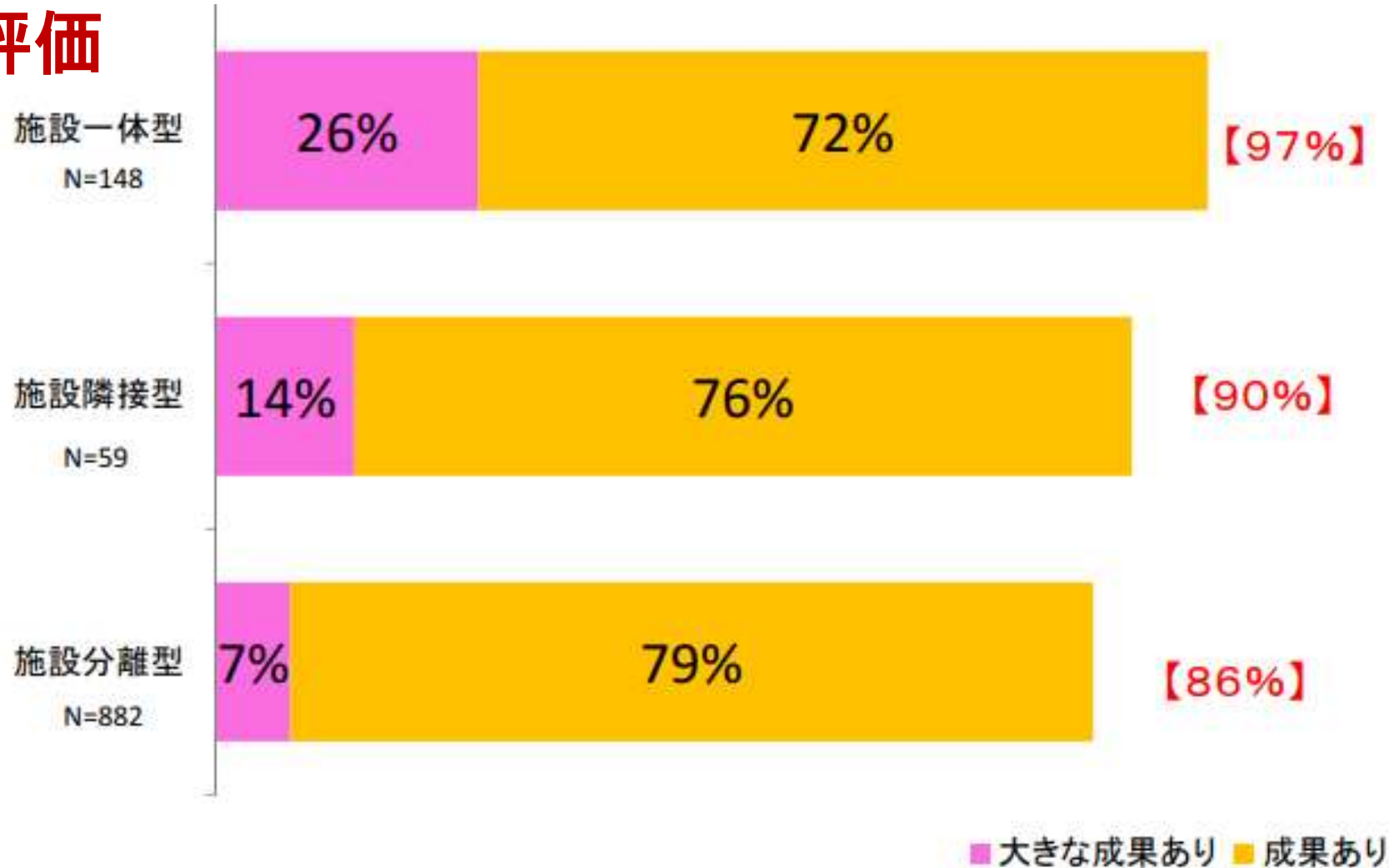


I 義務教育学校とは

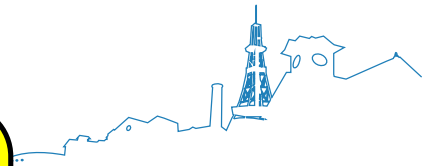


施設形態 × 小中一貫教育の効果（文部科学省調べ抜粋）

★ 総合評価



I 義務教育学校とは



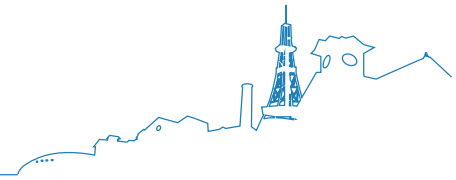
以上を踏まえて、

- 通学区域が概ね同一校区であること
- 小中一体の校舎である、
または小中一体の校舎整備を行うこと

○札幌市においては、一定の条件を満たす地域については、**組織が一つで校舎も一体である義務教育学校**を設置することとしました。

○さらに札幌市で設置する**義務教育学校で蓄積する取組事例**を全市の学校へ積極的に伝えることで、「**小中一貫した教育**」の更なる推進につなげます。

I 義務教育学校とは



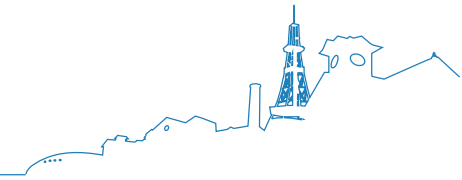
学年の区切り(指導区分)

義務教育学校の効果を最大限発揮するためには、小中学校段階の円滑な接続ができることが非常に重要と認識。

※前述の文部科学省調査においても6-3以外の指導区分の方が小中一貫教育の効果が高いともされています。

→札幌市立の義務教育学校においては、小中にまたがる学年の区切りを設けて、小中一貫した教育の更なる推進を目指します。

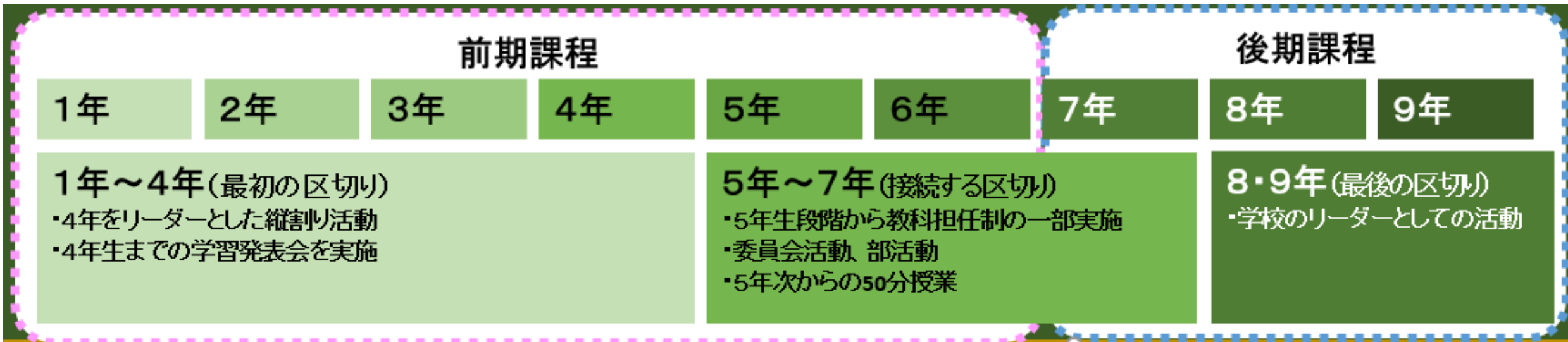
I 義務教育学校とは



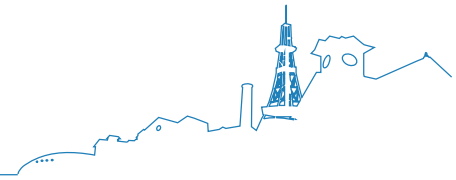
学年の区切り(指導区分)

小学校でも中学校でもない、小学校1年生段階から中学校3年生段階まで一体のものとして運営する学校。

★ 他都市の一例(真駒内地区については、これから検討)



I 義務教育学校とは



課題と対応策

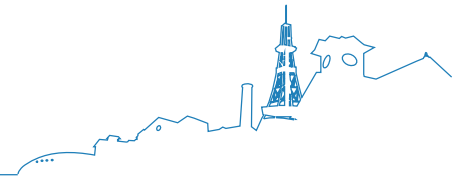
○課題① 小6段階でのリーダーシップ育成

⇒ 他都市においては指導の区分を4-3-2に分け、各段階でリーダーシップを育てるなどの工夫を行っている事例があります。

○課題② 転出入者への学習指導上の対応

⇒ 義務教育学校においては、中学校段階の授業の先取り(指導内容の入替え)も制度的には可能ですが、転出入者への対応を考慮し、札幌市では行わないこととします。

I 義務教育学校とは



課題と対応策

○課題③ 幅広い学年の子どもが同じ校舎で過ごすことに伴う 生徒指導上の対応

⇒ 他都市視察では、幅広い異年齢集団による活動を推進することが、学校全体の生徒の落ち着き(問題行動の激減)につながっている事例を目の当たりにしました。

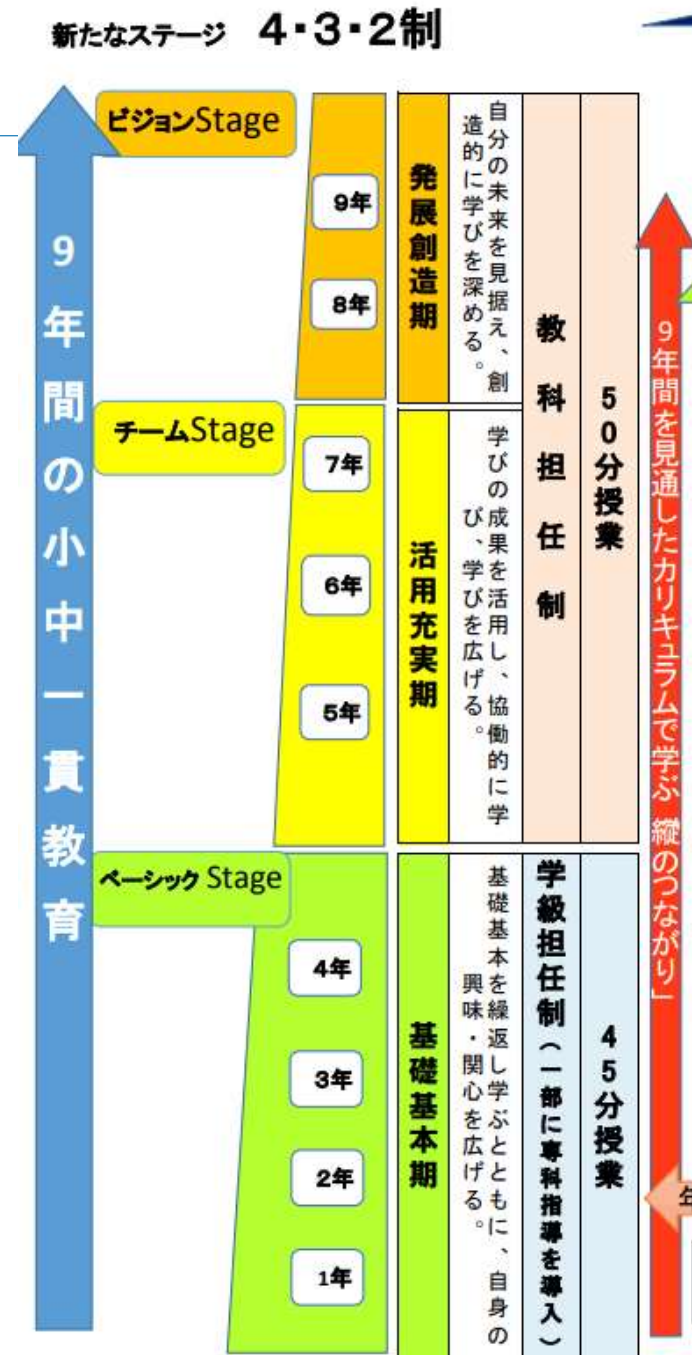
先行事例も踏まえ、十分に学校とも相談しながら、より良い学校づくりを目指してまいります。

I 義務教育学校とは

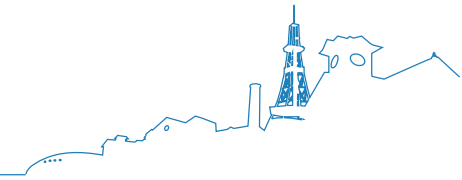
【事例】

京都市立向島秀蓮小中学校

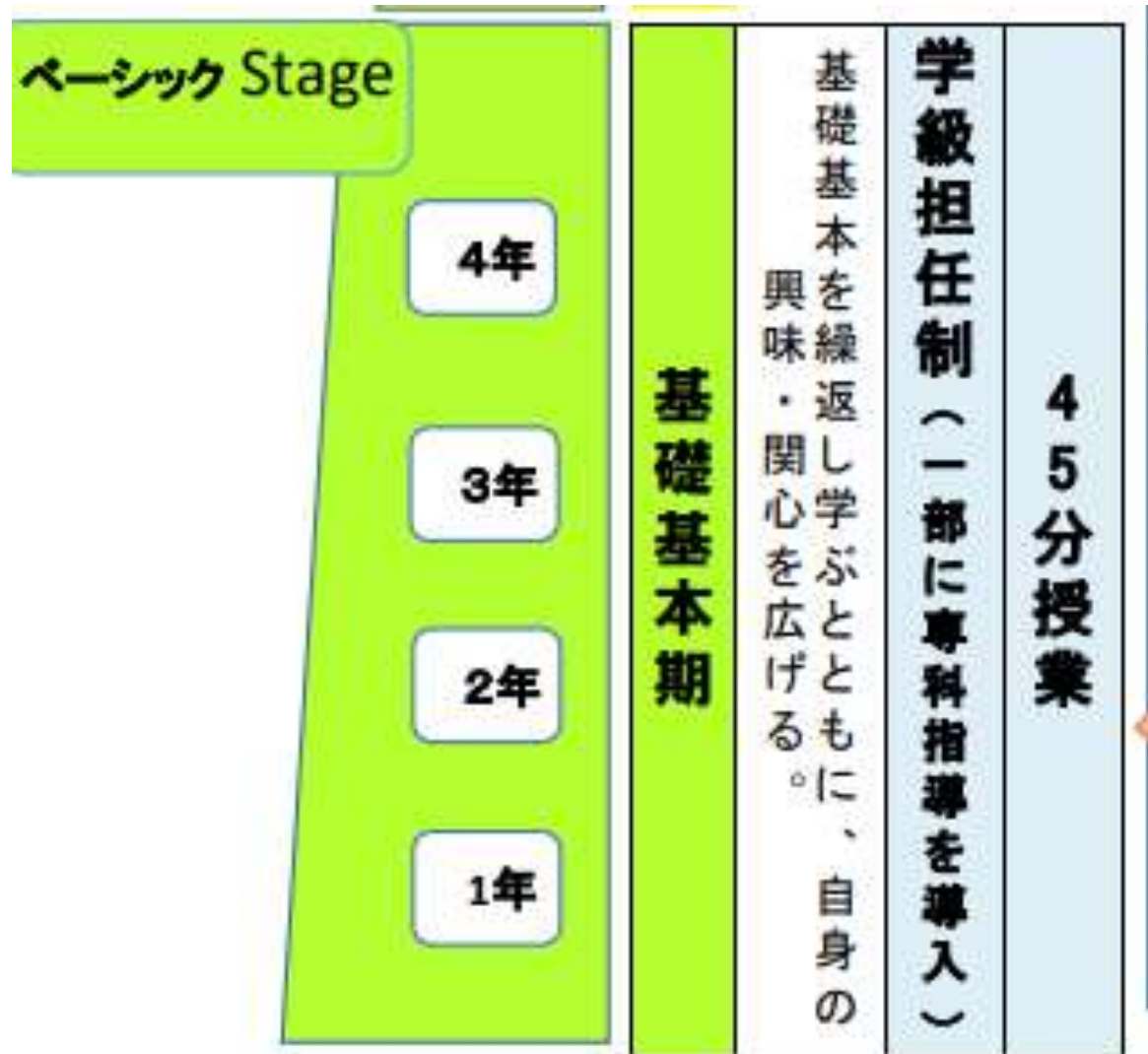
- ◆ 4-3-2の指導区分
 - ・ベーシックステージ(1~4年)
 - ・チームステージ(5~7年)
 - ・ビジョンステージ(8~9年)
- ◆ 全校児童生徒数860人
- ◆ 教職員数85人
- ◆ 元々は3小1中の地域



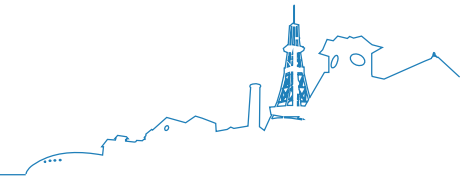
I 義務教育学校とは



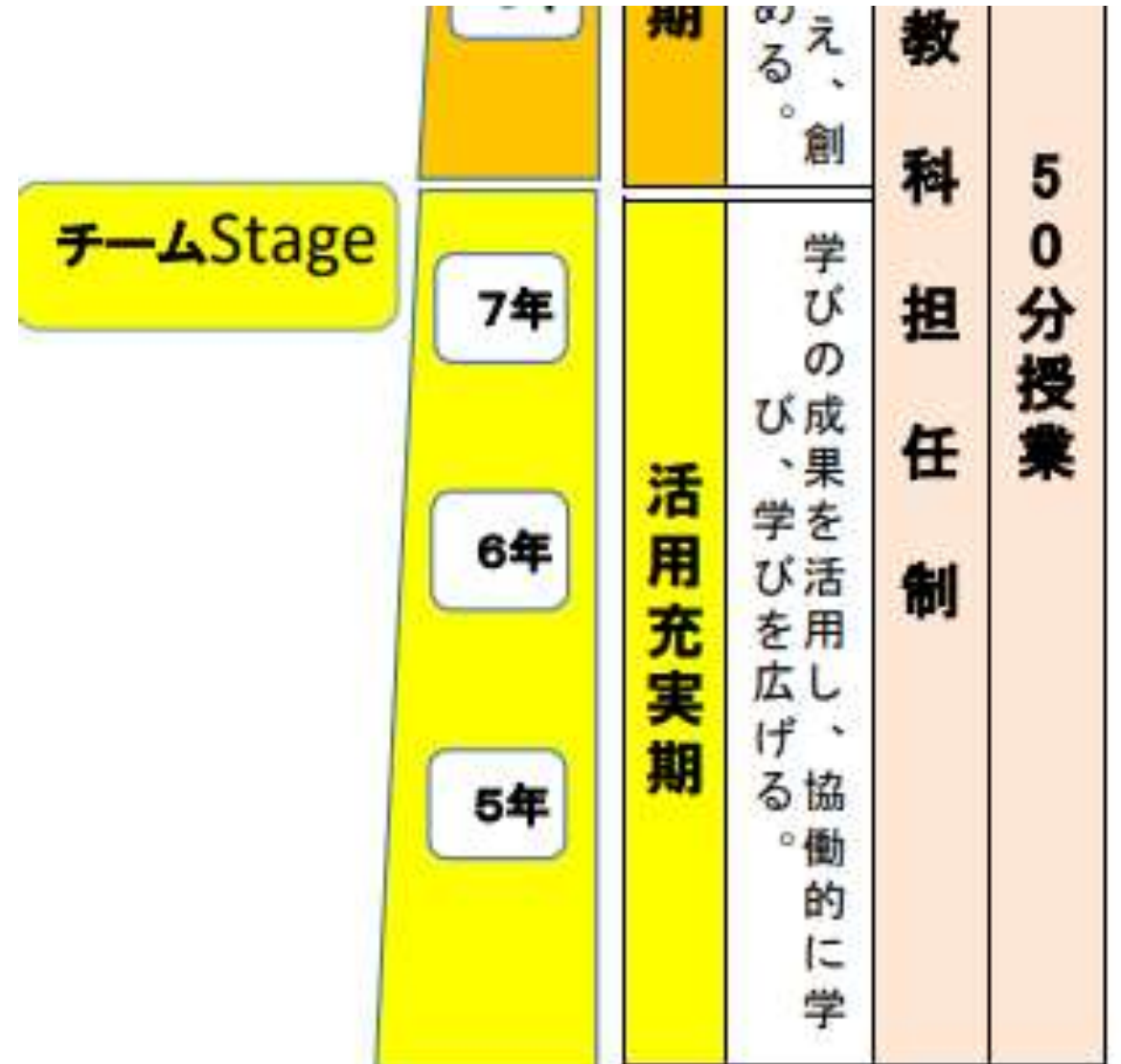
- ◆ **ベーシックステージ(1～4年)**
 - 4年生がリーダーとなる場面を意図的に創出(4年生による委員会活動など)。
 - 学習発表会を1～4年生で実施(5年生以上は合唱)。
 - 月に一度のたて割り活動。



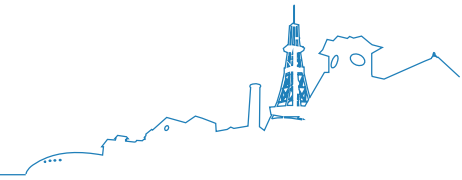
I 義務教育学校とは



- ◆ チームステージ(5~7年)
 - 教科担任制の導入。
 - ※学力向上に一定の成果
 - 小グループによる学習成果の発表交流を3学年で実施。
 - 生徒会活動、部活動への参加は5年生から。

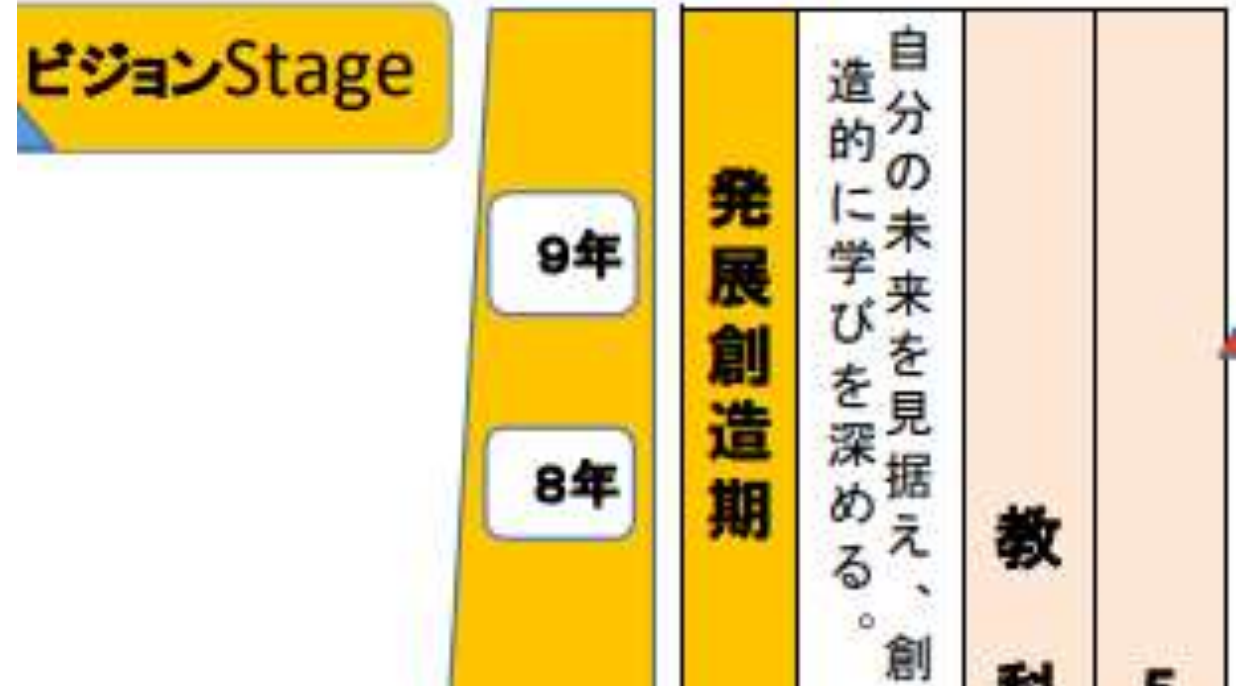


I 義務教育学校とは



◆ ビジョンステージ(8～9年)

- 8・9年生は、ともに学校のリーダーとして位置付け。
- 8年生と4年生との合同宿泊研修の実施。
- 生徒会役員への立候補は7年生から。



9年間の**学び**を つなげます

分かる・できる・楽しい授業による
連続性のある教育の推進

子どもの**育ち**を つなげます

小・中の指導のよさを取り入れた
切れ目のない子どもの育ちの支援

4つの視点から 札幌らしい教育を進めます

互いの顔の見える関係づくりによる
小中の教職員の連携の強化

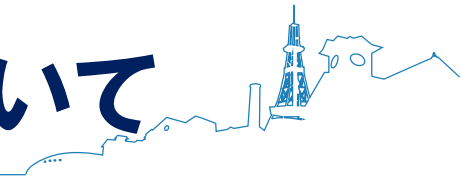
小中の**教職員**が つながります

目指す子どもの姿の共有などによる
地域とともにある学校づくりの推進

学校・家庭・**地域**が つながります



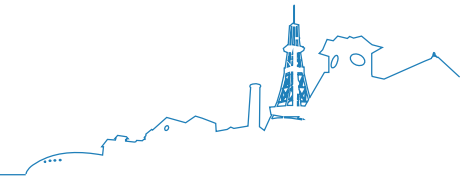
II 真駒内地区における義務教育学校の整備について



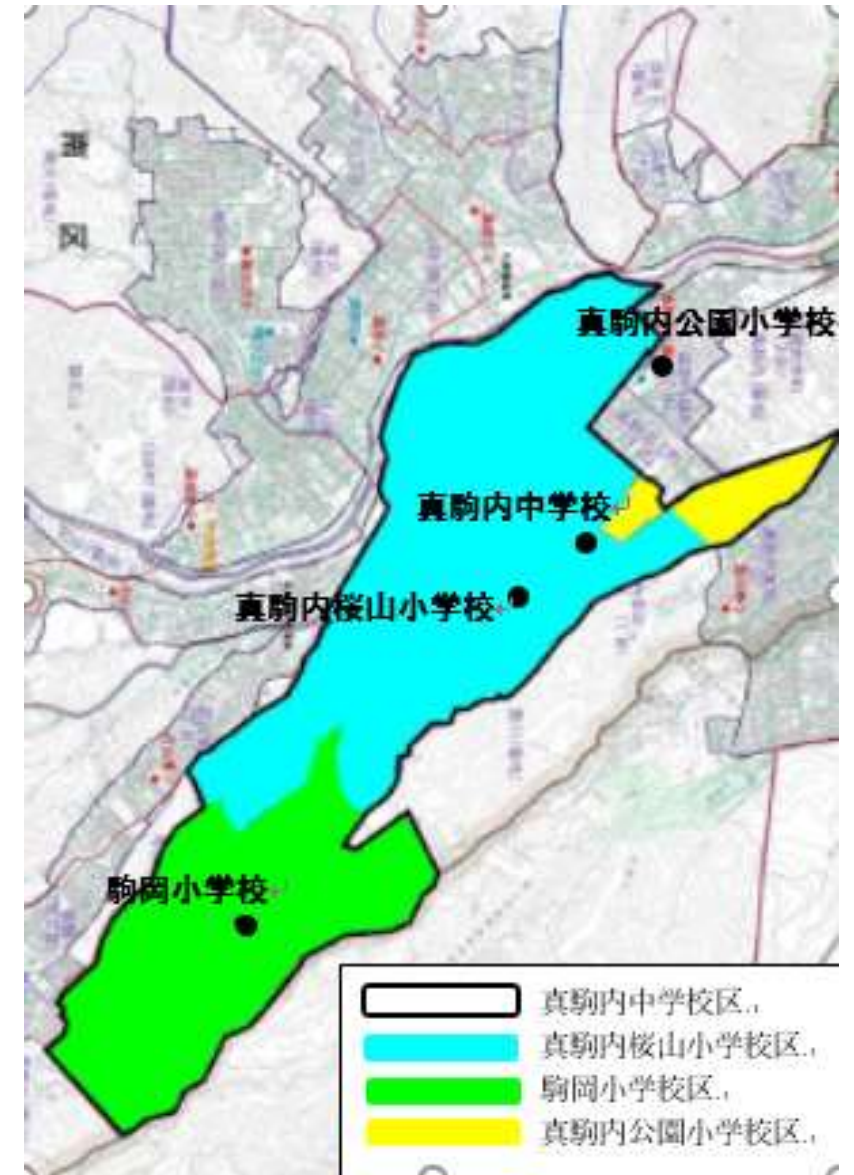
校舎整備について

	真駒内桜山小	真駒内中
建築年次	<ul style="list-style-type: none">校舎～昭和41年体育館～平成8年	<ul style="list-style-type: none">校舎～昭和42年体育館～平成12年
児童生徒数	<p><令和4年度> 617人（18学級、特別支援3学級）</p> <p><令和8年度推計> 457人（15学級、特別支援3学級）</p>	<p><令和4年度> 385人（11学級、特別支援2学級）</p> <p><令和8年度推計> 303人（9学級、特別支援3学級）</p>

Ⅱ 真駒内地区における義務教育学校の整備について



- 真駒内桜山小学校と真駒内中学校は、両校とも建築後50年以上が経過しており、改築が同時期です。
- 真駒内桜山小学校・駒岡小学校と真駒内中学校は、校区が概ね一致しています。
- ⇒真駒内桜山小学校と真駒内中学校を義務教育学校として、真駒内桜山小学校の敷地に新たに校舎を整備します。
なお、駒岡小学校は特認校のため、学校は存続します。

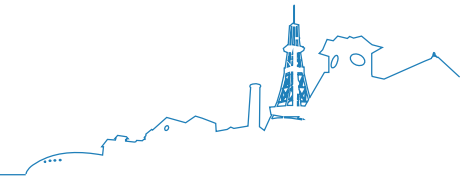


Ⅱ 真駒内地区における義務教育学校の整備について

- 真駒内桜山小学校の既存の体育館(平成8年築)は活用し、新たに第2体育館を整備します。
- 真駒内桜山小学校に近接した道警官舎跡地を取得して、第2グラウンドを整備します。



Ⅱ 真駒内地区における義務教育学校の整備について



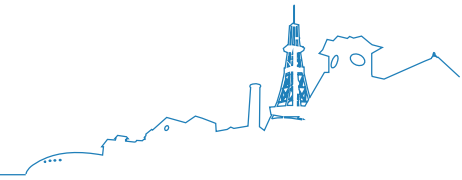
【地域コミュニティ施設の複合化について】

○新たに整備する義務教育学校には、真駒内五輪児童会館を複合化することを予定しています。

※真駒内まちづくりセンター(南区民センター内)は、将来的な建替えが予定されている南区民センターに複合化することを予定しています。



II 真駒内地区における義務教育学校の整備について



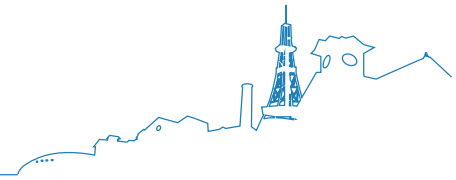
想定スケジュール

令和4年度												令和5年度											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基本設計 (建物・諸室の配置等の検討)												実施設計 (基本設計に基づく設備等の詳細設計)											

令和6年度												令和7年度											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第2グラウンド工事				プール解体		校舎・第2体育館新築工事																	

令和8年度												令和9年度											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
☆開校												グラウンド整備 (旧真駒内桜山小グラウンド)											
旧校舎解体																							

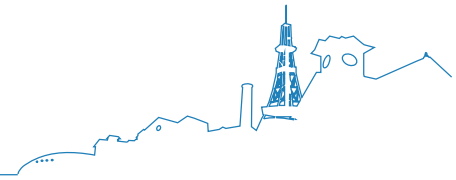
III これまでのご質問から(Q&A)



Q.入学式や卒業式はどうなりますか

A.一つの学校になることから、入学式が1回、卒業式が1回となります。ただし、学年段階の区切りを踏まえ、児童生徒の新たな段階に入る自覚を高めるような行事等を行うことも可能ですので、今後検討してまいります。

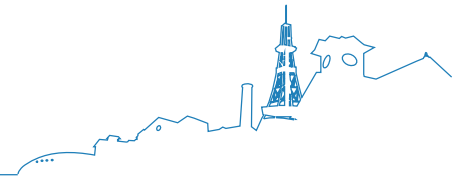
III これまでのご質問から(Q&A)



Q.制服や学校行事はどうなるのでしょうか。

A.現時点では決まっていません。これから学校と相談しながら検討していきます。

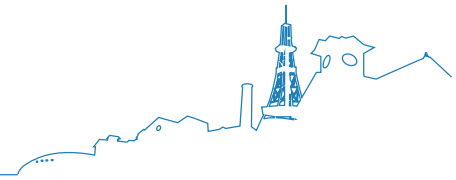
III これまでのご質問から(Q&A)



Q.大規模な学校を作るべきではないと思います。

A.義務教育学校の標準規模は18学級以上27学級以下となっており、この範囲内であれば、十分機能するものと認識しています。
一方で、地域の皆様の中に不安を感じている方がいることもわかりましたので、不安を軽減する方法についても検討させていただきます。

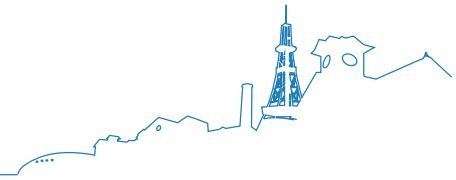
III これまでのご質問から(Q&A)



Q.義務教育学校になることで先生が減るのではないのでしょうか。

A.義務教育学校は、小中を一つの学校としますが、教員配置は通常の小中学校と同様、小学校段階、中学校段階それぞれの児童生徒数に応じて算出することから、先生が減ることにはなりません。

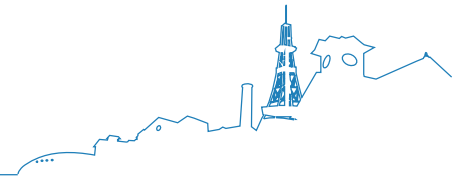
III これまでのご質問から(Q&A)



Q.義務教育学校になるときめ細かな指導ができるということですが、どういう意味でしょうか。

A.小学校1年生段階から中学校3年生段階の9年間を通して、一人一人の子どもの学びや成長を継続して支えていくことができます。これにより、子どもの良さや可能性をより伸ばす指導に繋げることができると考えています。

IV 最後に



- 義務教育学校は、保護者・地域の皆様と9年間の連続性をもった安定的な関わりをもてることも、大きなメリットです。
- 仕組みも中身も充実した義務教育学校へ。
- 保護者・地域の皆様とともに、魅力的な学校づくりを進めてまいりたいと考えております。ご理解、ご協力を何卒よろしくお願いいたします。